

# PRESS RELEASE

プレス・リリース



横浜という魅力的な「若い」都市が、さらに年輪を重ね、静かに熟成していく時期が訪れているように感じています。港町の解放感を大事にしながら、未来に向けたしっかりとした一步を第三回目となるトリエンナーレで踏み出すことができればよいと思います。テーマはちょっと謎めいた「Time Crevasse」（時間のクレヴァス）。多くの方々にアートが伝える時間を越えるメッセージの強さと深さと魅惑を感じてもらえたらと思います。

横浜トリエンナーレ 2008  
総合ディレクター  
水沢 勉

## 横浜トリエンナーレ 2008 概要 (1)

2001年に始まった現代美術の国際展「横浜トリエンナーレ」の第3回展。総合ディレクターの掲げるテーマに基づき、世界各地より80人程度の作家を選定し、多様な作品(映像、インスタレーション、写真、絵画、彫刻等)を展示します。世界最先端の現代美術の紹介に努め、新作を中心に展覧する一方、開催地・開催場所の魅力や個性を生かした作品(サイトスペシフィック・ワーク)も数多く含めることによって、街を取り込んだ大規模な「美術の祭典」といたします。

会期中は、トリエンナーレのコンセプトや理念を補完するシンポジウムをはじめ、作家と参加者との対話が広がるようなワークショップやギャラリー・トークなどの交流イベントも積極的に展開。また、国内外の美術機関や他の国際展との連携も模索していきます。

- 名称： 横浜トリエンナーレ 2008  
YOKOHAMA 2008: International Triennale of Contemporary Art
- 会期： 2008年9月13日(土)～11月30日(日)の合計79日間
- 会場： 横浜市都心臨海部(合計約10,000㎡程度の屋内展示スペース)
- 主催： 国際交流基金、横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会ほか

## 横浜トリエンナーレ 2008 概要 (2)

### 総合ディレクター

水沢 勉 (神奈川県立近代美術館企画課長)

### キュレトリアル・アドヴァイザリー・チーム

ダニエル・バーンバウム

(フランクフルト市立美術大学学長、ポルティクス ディレクター /  
Rector of the Städelschule Art Academy and Director of the  
Portikus, Frankfurt am Main)

フー・ファン

(ビタミン・クリエイティブ・スペース 共同ディレクター /  
Co-Director of the Vitamin Creative Space, Guangzhou)

ハンス=ウルリッヒ・オブリスト

サーペンタイン・ギャラリー 国際プロジェクト担当ディレクター、  
展覧会プログラム共同ディレクター / Co-Director of Exhibitions and Programmes  
and Director of International Projects, the Serpentine Gallery, London)

(※アルファベット順)

(備考)

1. 総合ディレクターは、横浜トリエンナーレ組織委員会の下に選考委員会を設けて選考を行ない、同組織委員会総会において決定いたしました。

#### 【選考委員】(五十音順)

デヴィッド・エリオット (元森美術館館長)

川俣 正 (美術家、第2回展総合ディレクター)

酒井忠康 (世田谷美術館館長、美術館連絡協議会理事長)

中村信夫 (CCA 北九州ディレクター、第1回展アーティスティック・ディレクター)

ホー・ハンルー (サンフランシスコ・アート・インスティテュート 展覧会・パブリックプ  
ログラム担当ディレクター、イスタンブール・ビエンナーレ 2007 総合キュ  
レーター)

2. キュレトリアル・アドヴァイザリー・チームは、2006年11月29日現在で本人の了承を得た者のみを記載。今後更に数名が加わる予定です。同チームは展覧会全般のアドヴァイザリー機能を担うメンバーと、実際のキュレーションを担うメンバーとで構成の予定です。

## 横浜トリエンナーレ 2008 総合ディレクター紹介

水沢 勉 みずさわ・つとむ

1952年横浜市生まれ。

1978年慶応義塾大学大学院修士課程修了後、神奈川県立近代美術館に学芸員として勤務、現在同館企画課長。ドイツ語圏および日本の近現代美術に関心を抱き、その交流史についても論じる。主な著作に『この終わりのときにも－世紀末美術と現代』（思潮社、1989年）、『北方美術の流れ』（共著、岩波書店、1993年）、『表現主義と社会派・世界美術大全集第26巻』（共著、小学館、1995年）、『点在する中心』（共編著、春秋社、1995年）、訳書にS. ラックナー『マックス・ベックマン』（美術出版社、1983年）、CH. M. ネベハイ『エゴン・シーレーンスケッチから作品へ』（リプロポート、1993年）など多数。企画・担当した主な展覧会は、「第26回今日の作家」展（1990年／近藤幸夫、正木基との共同企画）、「舟越桂」展（1993年）、「李禹煥」展（1993年）、「アジアのモダニズム」展（1995年／建畠哲、塩田純一との共同企画）、「アントニー・ゴームリー」展（1996年）、「若林奮」展（1997年）、「モボ・モガ 1910-1935」展（1998年／ジャッキー・メンジーズ、ジョン・クラークらとの共同企画）、「ジョージ・グロス」展（2000年）、「新千年紀へのメッセージ イスラエル美術の近代」（2001年）、「小杉武久」展（2002年）など多数。また、1993年と1997年にバンガラデシュ アジア・アート・ビエンナーレ、2004年にサンパウロ・ビエンナーレの日本コミッショナーを務める。神奈川県在住。

## 横浜トリエンナーレ 2008 全体テーマ

### TIME CREVASSE (タイムクレヴァス)

アートがわたしたちにあたえてくれる無限のエネルギーを、横浜で開かれる大規模な国際展でもう一度確認したいと思います。

アートは、わたしたちの日常をゆさぶり、普段は気づかない、あるいは、しばしば忘れていたふりをしてしまっている「深淵」を垣間見させ、わたしたちをときに慄然とさせ、ときに勇気づけ、ときに慰め、ときに生きる覚悟をあたえてくれます。

アートの豊かさは、「新しさ」によって保証されているのではないこと。紀元前に遡るギリシャ古典古代のテキストがついに今しがた隣人によって書かれたような身近さを感じさせ、遠い異国の何世紀を経た楽曲の響きが生まれたばかりの新鮮さで耳に届き、自分が属する文化圏とはほとんど無縁の宗教空間の美的な達成に圧倒されるときに、わたしたちは繰り返しそのことを実感しています。

「新／旧」というパラダイムは、単線的な時間という、硬直した世界観によって保証されているのではないのでしょうか。いま世界は、高度な情報化によって、時間も空間もひとつの基準によって標準化されているように思われますが、じつはその標準化そのもののためにかえって多くの分断、おそらく、人類の歴史のなかでも、そうとうに深刻な分断をわたしたちは生きることを余儀なくされているように感じられるのです。

時間は複数の系として流れている。とはいえ、そのこと自体がそのまま豊かであるわけではありません。むしろ、時間は、ときに捩れ、渦巻き、ぶつかりあい、そこに予想をしない亀裂が生じ、そこに深淵が顔を覗かせます。

アートの力は、まずは、その深淵を直視し、いうならば「タイムクレヴァス」のかたわらに佇むことによって、個人と社会、国家、性差、世代差、人種、宗教といった相互の差異を、現在の自分自身が置かれている状況を含めて、徹底して感じ取ることから生まれ出ているのではないのでしょうか。

雪原に口を開くクレバスは、きわめて「美しい」ものだといいます。しかし、アートの力は、そこに転落する誘惑を断ち切る力も同時に秘めています。そこにひとびとが交通するための橋を架ける行為でもあるのです。

横浜というわずか150年ほど前に、世界へと初めて開かれた、若い都市は、そのようなアートによる橋をかけるための相応しい場所ではないのでしょうか。そして、それが文化的な成熟へのたいせつな一歩となってくれることを願い、横浜トリエンナーレ第三回展をわたしは「タイムクレヴァス」と命名したのです。

## 過去2回の横浜トリエンナーレ開催記録

	第1回展 横浜トリエンナーレ 2001	第2回展 横浜トリエンナーレ 2005
会期	2001年9月2日 - 11月11日 (67日間)	2005年9月28日 - 12月18日 (82日間)
メイン会場	パシフィコ横浜展示ホール 赤レンガ1号倉庫	山下ふ頭3、4号上屋
参加作家	109作家 (38ヶ国)	71作家・グループ (作家合計86人) (30ヶ国・地域)
総合ディレクター	河本信治、建畠哲、中村信夫、南條史生	川俣 正
全体テーマ	メガ・ウェイブ - 新たな総合に向けて	アートサーカス [ 日常からの跳躍 ]
登録ボランティア	719人	1,222人
総入場者数	約35万人 (2会場合計)	約19万人
主催	国際交流基金、横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会	同左

横浜トリエンナーレ組織委員会

事務局（東京事務所）

〒107-6021 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 20F 国際交流基金内  
Tel: 03-5562-3531 Fax: 03-5562-3528

事務局（横浜事務所）

〒231-0015 横浜市中区尾上町 1-6 住友生命横浜関内ビル 5F  
横浜市開港 150 周年・創造都市事業本部  
Tel: 045-671-3504 Fax: 045-663-9212

<http://www.yokohamatriennale.jp>